

科目名	作業療法学概論A			単位数	1	時間数	15		
授業形態	講義	対象学生	OT1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	206
授業概要	作業療法士を目指して入学したわけだが、作業療法がどのような専門性を有しているか不明確な者も多いと考えている。本科目を受講することにより、「作業療法とは何か、どのような専門性を有しているか」という問いに答えられるようになることを求める。								
一般目標	作業療法とは何かを平易な言葉で説明する知識を身につける。								
テキスト 参考書等	作業療法学ゴールドマスター・テキスト 作業療法学概論 改訂第2版(メジカルビュー社) 参考書:作業療法の世界 第2版(三輪書店)								

到達目標	
知識(認知領域)	・作業療法の流れを説明できる。・作業療法の定義を覚え、その意味を説明できる。・作業療法の歴史を知り、作業療法の起源を説明できる。・領域別作業療法について、資料をまとめ、他者に分かりやすく説明することができる。
技術(精神運動領域)	なし
態度(情意領域)	居眠り、私語なく授業に取り組むことができる。

回数	授業内容	授業目標
1	作業療法とは？作業療法のプロセス	左記内容について必要なキーワードを挙げ、説明することができる。
2	作業療法の定義	左記内容について必要なキーワードを挙げ、説明することができる。
3	作業療法の歴史(世界)	左記内容について必要なキーワードを挙げ、説明することができる。
4	作業療法の歴史(日本)	左記内容について必要なキーワードを挙げ、説明することができる。
5	身体障害、精神障害、発達障害、高齢期、地域作業療法の作業療法調査	各領域における作業療法の概要を調査し、それを説明することができる。
6	身体障害、精神障害、発達障害、高齢期、地域作業療法の作業療法調査	各領域における作業療法の概要を調査し、それを説明することができる。
7	身体障害、精神障害、発達障害、高齢期、地域作業療法の作業療法調査	各領域における作業療法の概要を調査し、それを説明することができる。
8	発表&まとめ	資料を整理し、内容を他者が理解できるよう説明することができる。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度			○	10	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品			○	20	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介		実務経験紹介	精神科病院、高齢者施設での実務経験(8年間)と、現在刑務所非常勤で、概論での知識を応用した実践に取り組んでいる。	

科目名	作業療法学概論B			単位数	1	時間数	15		
授業形態	講義	対象学生	OT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	206教室
授業概要	作業療法に関連した学問や理論、また、作業療法士に必要な職業倫理を学ぶ。学生自身が、将来の作業療法士像を想像できる講義とする。								
一般目標	作業療法士に必要な職業倫理の重要性に気づき、倫理観を身につけられる。								
テキスト 参考書等	作業療法学ゴールドマスター・テキスト 作業療法学概論 改訂第2版(メジカルビュー社)								

到達目標	
知識(認知領域)	<ul style="list-style-type: none"> 作業療法に関連する学問の概要を説明できる。 作業療法士養成課程の概要を説明できる。 作業療法の各領域で代表的な理論を列挙できる。 医療職および作業療法士に必要な職業倫理の概要を説明できる。 理学療法士の仕事内容を理解し作業療法との違いを説明できる。
技術(精神運動領域)	<ul style="list-style-type: none"> 特になし
態度(情意領域)	<ul style="list-style-type: none"> 授業に意欲的に参加できる。

回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 作業療法に関連する学問	講義の概要が説明できる。 作業療法に関連する学問の概要を説明できる。
2	作業療法に関連する学問 教育課程の概要	作業療法に関連する学問の概要を説明できる。 作業療法士養成課程について概要を説明できる。
3	作業療法の理論	作業療法に関連する理論を列挙できる。代表的な理論の概要は説明できる。
4	医療職および作業療法士としての 職業倫理	医療従事者として、作業療法士としての職業倫理を説明できる。
5	作業療法の実際(1)	身体障害領域での作業療法の実践事例を説明できる。
6	作業療法の実際(2)	身体障害領域での作業療法の実践事例を説明できる。
7	作業療法の実際(3)	身体障害領域での作業療法の実践事例を説明できる。
8	理学療法概論～理学療法学科教員による 講義～	理学療法の概要を説明できる。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			60	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート	○			40	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として、保健・医療領域および教育機関での20年以上の実務経験を有する。	

科目名	作業療法学概論演習			単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT1年	学期	前・後期	教員実務経験	有	使用教室
授業概要	作業療法に関する知識や技術の習得は、学内にどまらず現場においてこそ真の学びを得ることが出来る。学内で学んだ事が実際の臨床の場でどう活用されているのか、またはどのように異なっているのかを体験する。さらに、社会人としてどのように立ち居振る舞わなければならないのかを、現場のセラピストを通して学び今後の糧とすることが出来る事を期待する。							
一般目標	実習指導者あるいは対象者とのコミュニケーションを通し、社会人としての適切な立ち居振る舞いを身につける。							
テキスト 参考書等	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎リハビリテーション医学 第1版(羊土社)							

到達目標

知識(認知領域)
現場での作業療法士の仕事の実践が説明出来る。

技術(精神運動領域)
対象者とのコミュニケーションを通し、社会人として適切に振舞うことが出来る。

態度(情意領域)
学外活動を行う上で必要な礼節、立ち居振る舞いを学び、実践することが出来る。
積極的に授業に参加することが出来る。

回数	授業内容	授業目標
1	実習オリエンテーション①(実習目標等説明)	実習に際しての流れ、獲得目標、留意点などを理解する事が出来る。
2	実習オリエンテーション②(実習配置発表・実習施設情報収集)	実習地に関する情報を収集しまとめることが出来る。
3	実習オリエンテーション③(実習事前連絡、提出課題説明)	実習開始一週間前に事前連絡を行う。挨拶の他、事務的事項の確認を行う。提出課題の説明を受け理解する事が出来る。
4	身障系病院見学①(7月30日)	決められた場所、期間において見学を行い実習目標を達成出来る。
5	身障系病院見学②(7月30日)	決められた場所、期間において見学を行い実習目標を達成出来る。
6	身障系病院見学③(7月31日)	決められた場所、期間において見学を行い実習目標を達成出来る。
7	身障系病院見学④(7月31日)	決められた場所、期間において見学を行い実習目標を達成出来る。
8	身障系病院見学⑤(8月1日)	決められた場所、期間において見学を行い実習目標を達成出来る。
9	身障系病院見学⑥(8月1日)	決められた場所、期間において見学を行い実習目標を達成出来る。
10	発表①(8月2日)	実習で得た体験をクラスで共有し、今後の学習の糧とすることが出来る。
11	発表②(8月2日)	実習で得た体験をクラスで共有し、今後の学習の糧とすることが出来る。
12	OT啓発活動(宇部・小野田地区)	山口県作業療法士会の啓発活動に参加し、OTの知名度を向上させる取り組みに重要性を理解する事が出来る。
13	実習オリエンテーション・講義③(精神疾患、精神科OTについて) (実習前課題統合失調症、認知症について、実習課題など)	精神科実習に際して、精神疾患、精神科OTについての概要を学び理解することが出来る。
14	精神科病院見学①(2月上旬)	決められた場所、期間において見学を行い実習目標を達成出来る。
15	精神科病院見学②(2月上旬)	決められた場所、期間において見学を行い実習目標を達成出来る。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準	
定期試験				評価なし	優(3):80点以上	
小テスト				評価なし	良(2):70点以上	
宿題授業外レポート	○			80	可(1):60点以上	
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得	
発表・作品	○	○	○	20		
演習				評価なし		
出席				欠格条件	()内はGPA点数	
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	作業療法士として15年間病院で勤務。その間学生実習を受け入れ指導にあたる。		

科目名	作業学			単位数	1	時間数	15		
授業形態	講義	対象学生	OT1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	206
授業概要	作業療法の「作業」とは何かを考えたことがあるだろうか。それは多種多様な視点から定義づけられている。講義後には自分なりの作業の定義を言えるようになることを求める。								
一般目標	作業療法の基礎学問である作業科学を学ぶことで「作業」に含まれる特性を理解する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院 参考書:「作業」って何だろう 作業科学入門 第2版 医歯薬出版								

到達目標	
知識(認知領域)	① 自身の生活がどのような作業で構成されているかを列挙する。② ①で挙げた作業にどのような形態・機能・意味があるかを列挙する。③ 作業的公正、不公正の概念を説明する。 ④ 作業の視点で自身や他者を知ることができる。⑤ 作業を治療に用いている際に必要な作業分析の仕方を理解する。
技術(精神運動領域)	なし
態度(情意領域)	なし

回数	授業内容	授業目標
1	作業の定義、分類、効果、作業的存在	作業の定義、分類、効果、作業的存在の概念を説明できる。 作業の視点で「ひと」や「社会」を見ることができる。
2	作業バランス	作業バランス自己診断を用い、自身の生活を構成する作業を列挙できる。
3	作業的公正・不公正	自身が現在担っている役割を列挙する。 作業的公正・不公正の概念を知り、自身の例を考えて列挙できる。
4	作業の形態・機能・意味	作業の形態・機能・意味の概念を理解し、説明できる。
5	作業の視点で自身や他者を知る	作業の視点で自身や他者を知ることができる。 ワークショップ「作業的存在である自身に気付く」
6	作業の視点で自身や他者を知る	作業の視点で自身や他者を知ることができる。 ワークショップ「作業的存在である自身に気付く」
7	作業分析	作業の階層を説明できる。作業分析とは何かを説明できる。包括的・限定的作業分析。 工程、動作、運動分析ができるようになる。
8	作業分析	作業の階層を説明できる。作業分析とは何かを説明できる。包括的・限定的作業分析。 工程、動作、運動分析ができるようになる。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度			○	20	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介		実務経験紹介	日本作業科学研究会 前理事、現在実践研修班と研究法研修班に在籍(7年)	

科目名	作業学実習				単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	木工室
授業概要	作業療法は治療手段として様々な「作業」を用いる。その作業をすることがどのような治療的効果があるのかを体験的に理解することを目的とするが、根本的に、「作業」に取り組むことの楽しさや難しさを感じてほしい。								
一般目標	「作業」を実際に経験することで、楽しさ・難しさを体感し、各作業にどのような特性があるのか分析できるようになる。								
テキスト 参考書等	※適宜資料配布 参考書:標準作業療法学 専門分野「基礎作業学 第3版」(医学書院)、「作業」って何だろう 作業科学入門(医歯薬出版)、ひとと作業・作業活動(三輪書店)								

到達目標	
知識(認知領域)	<ul style="list-style-type: none"> 各作業がどのような工程で行われるかを列挙することができる。 各作業で使われる材料や道具を扱うための機能を列挙することができる。 各工程でどのような治療的意義があるかを列挙することができる。
技術(精神運動領域)	<ul style="list-style-type: none"> 各作業を行うために必要な道具・材料を適切に扱うことができる。 校内展示に耐えうるor実用的に使用できる作品を完成することができる。 グループワーク・発表を通して、まとめる、表現する、伝えることができる。
態度(情意領域)	<ul style="list-style-type: none"> 作業に集中することができる。 必要に応じ、他者(教員含む)と連携することができる。

回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション ちぎり絵	ちぎり絵演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。 ・季節感の図案を考え、色紙に下書きすることができる。
2	ちぎり絵	・ちぎり絵作品を仕上げることができる。 ・包括的作業分析を記録用紙に沿って行うことができる。
3	革細工 (折ってつまんで革細工)	革細工演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。 ・革の特性を理解し、イメージした形に形成することができる。
4	革細工 (カービング、スタンピング)	・作品にカービング、スタンピングを実施できる。
5	革細工 (染色)	・作品に染色をすることができる。
6	季節飾り紹介	手近に準備できる材料で実施できる簡単な作業を紹介し、治療的応用の可能性を説明することができる。
7	革細工 (仕上げ)	・作品にコーティング、レーシングをして仕上げることができる。
8	革細工 (作業分析)	・革細工の包括的作業分析を記録用紙に従って行うことができる。
9	木工 (設計)	木工演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料を適切に扱うことができる。 ・提供された材料で作ることのできる作品を考え、木取り図を書くことができる。
10	木工 (裁断)	・木取り図に従い、木材を裁断することができる。
11	木工 (組み立て、塗装)	・裁断した木材を組み立て、塗装を行い仕上げるることができる。
12	木工 (作業分析)	・木工の包括的作業分析を記録用紙に沿って行うことができる。
13	集団活動	グループ活動を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。 ・グループの中で自分の役割を遂行できる。・作品を仕上げる。 グループ活動の集団構造分析を記録用紙に沿って行うことができる。
14	集団活動	グループ活動を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。 ・グループの中で自分の役割を遂行できる。・作品を仕上げる。 グループ活動の集団構造分析を記録用紙に沿って行うことができる。
15	講義のまとめ	その他主要な作業活動の工程、道具、材料の扱いについて説明することができる。 包括的作業分析の手順を説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート	○			50	可(1):60点以上
授業態度			○	10	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品		○		40	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	河本 玲子		実務経験紹介	作業療法士として30年以上総合病院勤務、多様な作業活動を患者に提供した。	

科目名	作業療法評価学総論			単位数	1	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	OT1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室
								206
授業概要	作業療法を実施する際、まずは患者の心身の状態を把握することから始まる。その状態に合わせた治療を実施するため、「評価」をできることは作業療法士として基礎となる。本科目では、評価の目的や意義、方法、手順といった、基礎知識の習得を目指す。							
一般目標	作業療法評価学を学ぶ上で基礎となる知識を習得する。							
テキスト参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院)							

到達目標	
知識(認知領域)	<ul style="list-style-type: none"> 作業療法評価の目的と意義、評価過程と評価項目を説明できる。 記録・報告・効果判定について説明できる。 面接、観察の目的について説明できる。
技術(精神運動領域)	なし
態度(情意領域)	なし

回数	授業内容	授業目標
1	評価の意義と目的	・作業療法評価の目的・意義を説明できる。
2	評価の視点	・OT評価に必要な視点をICFの定義と関連づけて説明できる。
3	情報収集段階	・ICFの構成要素や作業療法領域に応じた具体的な評価項目を列挙できる。
4	時期別、実施場所別の評価の主眼	・初期評価と再評価の目的の違いを言える。 ・実施場所別の評価の主眼を説明できる。
5	評価の手順、手段	・評価を実施する際の原則が言える。 ・評価の手段と、代表的な評価項目が言える。 ・評価尺度と、代表的な評価項目が言える。
6	評価のまとめと留意点	・評価実施上、対象者へ配慮すべきことを列挙することができる。 ・問題点と利点の違いをICFと関連づけて説明できる。 ・評価結果をデータで残すことの重要性を述べることができる。 ・統合と解釈についてICFと関連づけて説明できる。
7	記録・報告の意義 効果判定	・記録・報告の目的・意義を言える。 ・OTの効果判定について、具体的方法について列記できる。
8	面接法、観察法	・面接の目的、得られる情報を説明できる。 ・観察の目的、得られる情報を説明できる。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	河本 玲子		実務経験紹介	作業療法士として30年以上総合病院に勤務し、患者に対する評価を多数経験した。	

科目名	作業療法評価学各論			単位数	1	時間数	15		
授業形態	講義	対象学生	OT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	206教室・レク室
授業概要	作業療法の代表的評価(形態測定、関節可動域測定、筋力検査)を講義と体験を通して学ぶ。								
一般目標	作業療法評価における領域共通の評価法の概念を体験的に理解し、それらの概略を説明できる。また、領域共通の評価法を修得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版(医学書院) / 実践リハ評価マニュアルシリーズ 臨床ROM(HUMAN PRESS) / 新・徒手筋力検査法 原著第9版(協同医書出版)								

到達目標	
知識(認知領域)	・作業療法において評価することの意義・目的が説明できる。・関節可動域測定の概要を説明できる。・徒手筋力検査の概要を説明できる。・代表的な日常生活活動の評価を列記し、それぞれの概要を説明できる。・代表的な興味、役割、QOL評価を列記し、それぞれの概要を説明できる。
技術(精神運動領域)	・関節可動域測定が実践できる。・徒手筋力検査が実践できる。
態度(情意領域)	・授業に意欲的に参加できる。

回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 作業療法と評価	講義の概要を説明できる。 作業療法における評価の意義と目的が説明できる。
2	領域共通の評価法(形態計測)	形態測定の意義と目的等が説明できる。また、測定できる。
3	領域共通の評価法(関節可動域測定)	関節可動域測定の意義と目的等が説明できる。
4	領域共通の評価法(関節可動域測定)	関節可動域測定が実践できる。
5	領域共通の評価法(筋力検査)	筋力検査の意義と目的等が説明できる。
6	領域共通の評価法(筋力検査)	徒手筋力検査が実践できる。
7	日常生活活動の評価(BI、FIM、 国家試験の過去問題)	日常生活活動の評価(BI、FIM)の概要が説明できる。
8	興味、役割、QOLの代表的な評価	興味、役割、QOLの代表的な評価が列挙できる。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として、保健・医療領域および教育機関での学生指導経験は20年以上である。	

科目名	基礎作業治療学総論				単位数	1	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	OT1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	206
授業概要	作業療法はその専門性が分かりにくい故、様々な理論やプロセスモデルが開発されてきた。これらを知ることが作業療法士としての視点を育むことにつながる。								
一般目標	作業療法理論やプロセスモデルを理解し、作業療法士としてのアイデンティティを育む。								
テキスト参考書等	標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院								

到達目標	
知識(認知領域)	・作業療法理論を学ぶことで、作業療法士がクライアントにどのような治療をするかを理解し説明できる。・ひとの意志、習慣、生活バランス、環境をどのように捉えるかを知り、説明できる。・治療構造論を理解し、作業療法士の思考過程を説明できる。
技術(精神運動領域)	なし
態度(情意領域)	居眠り、私語なく講義に取り組むことができる。

回数	授業内容	授業目標
1	人-作業-環境モデル(PEOモデル)	人-作業-環境モデル(PEOモデル)を学び、その概念を説明できる。
2	作業と結びつきのカナダモデル(CMOP-E, クライアント中心の作業療法)	作業と結びつきのカナダモデル(CMOP-E, クライアント中心の作業療法)を学び、その概念を説明できる。
3	人間作業モデル(MOHO)	人間作業モデル(MOHO)を学び、その概念を説明できる。意志、習慣、環境の概念と関係性を説明できる。
4	作業療法介入プロセスモデル(OTIPM)	作業療法介入プロセスモデル(OTIPM)を学び、その概要を説明できる。
5	作業療法理論と実践	上記4つの理論と作業療法との結びつきを説明することができる。
6	治療構造論	治療構造論を通して治療計画立案方法を学び、手順を説明できる。
7	治療構造論	治療構造論を通して治療計画立案方法を学び、手順を説明できる。
8	講義のまとめ	全7回講義の内容を列挙し、それらを説明することができる。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度			○	10	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介		実務経験紹介	精神科病院、高齢者施設での実務経験(8年間)と、現在刑務所非常勤で作業療法理論を背景にした介入を実施。	

科目名	生活機能治療学			単位数	1	時間数	15		
授業形態	講義	対象学生	OT1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	206
授業概要	国際生活機能分類とリハビリテーションの関連を理解する。								
一般目標	1. 国際生活機能分類の各構成要素と相互関係を学び、生活機能の分類方法を修得する。 2. 各構成要素の具体的内容を学び、その分類方法を修得する。 3. 活動における最大能力(出来る活動)と実行状況(している活動)について理解し、その評価法を修得する。 4. 目標指向型リハビリテーションについて学び、その思考過程を身につける。								
テキスト 参考書等	・介護保険サービスとリハビリテーション-ICFに立った自立支援の理念と技法- (中央法規) ・ICF 国際生活機能分類 -国際障害分類改訂版- (中央法規) ・ICFの理解と活用 (萌文社)								

到達目標	
知識(認知領域)	・ICFの構成要素とその関連性を理解し説明することが出来る。
技術(精神運動領域)	事例を通してICFシートをまとめる事が出来る。
態度(情意領域)	意欲的に授業に参加することが出来る。グループワークにおいて、積極的に意見を述べ役割を果たすことが出来る。

回数	授業内容	授業目標
1	国際生活機能分類(ICF)とは	国際生活機能分類の概要を学び理解し説明出来る。 過去から現在までの、健康、疾病、障害、生活の捉え方の変遷を学び理解し説明出来る。
2	国際生活機能分類の構成要素と関係性について	ICFの構成要素とそれぞれの関係性について理解し説明出来る。
3	心身機能・身体構造および障害について	構成要素の一つである心身機能・身体構造および、これらの否定的側面(機能障害・構造障害)について理解し説明出来る。
4	活動・参加および活動制限・参加制約について	構成要素の一つである活動・参加および、これらの否定的側面(活動制限・参加成約)について理解し説明出来る。
5	背景因子(環境因子・個人因子)および促進・阻害因子について	生活機能の背景因子である環境因子・個人因子について理解し説明出来る。
6	出来る活動・している活動・する活動について	活動は実行能力(出来る活動)と遂行状況(している活動)に大別出来る。これらの違いを理解するとともに、主たる評価方法について理解し説明出来る。
7	国際生活機能分類とリハビリテーション	リハビリテーションにおけるICFの関係性、活用方法を理解し、説明出来る。
8	まとめ(事例を通して)	事例を通して、ICFシートをまとめる事が出来る。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	作業療法士として15年間病院で勤務。その間ICFを用い、患者の退院後の生活や生きがいを見据えた指導・訓練を実施。	

科目名	基礎作業評価技術論 I			単位数	1	時間数	15		
授業形態	講義	対象学生	OT1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	206
授業概要	作業療法で実施する身体機能にかかわる評価法の概要を説明する。上位学年で作業療法評価学をスムーズに履修できるようにするため、基本的な目的、手順、留意点を学習する。								
一般目標	身体障害領域で用いられる評価の概要を理解できる知識を習得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) 新・徒手筋力検査法 第9版(協同医学出版社) 適宜資料配布								

到達目標		
知識(認知領域) ・意識・意識障害について説明できる。・形態計測の意義を説明できる。・関節可動域測定に必要な、関節運動が説明できる。・基本軸・移動軸を説明できる。 ・徒手筋力検査法の実施方法、判定基準を説明できる。・反射検査の代表的な方法を説明できる。・反射異常の徴候を説明できる。・感覚の分類、体性感覚の分類を説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) なし		
回数	授業内容	授業目標
1	Vital Sign/身体計測	授業内容に関する目的、手順、留意点を説明できる。
2	身体計測	授業内容に関する目的、手順、留意点を説明できる。
3	関節可動域測定	授業内容に関する目的、手順、留意点を説明できる。
4	徒手筋力検査①	授業内容に関する目的、手順、留意点を説明できる。
5	徒手筋力検査②	授業内容に関する目的、手順、留意点を説明できる。
6	反射検査	授業内容に関する目的、手順、留意点を説明できる。
7	感覚検査	授業内容に関する目的、手順、留意点を説明できる。
8	片麻痺機能テスト(Brunnstrom test)	授業内容に関する目的、手順、留意点を説明できる。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	上原 奈緒子		実務経験紹介	作業療法士として医療・保健施設、および教育機関での実務経験が20年以上である。	

科目名	障害者支援論			単位数	1	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	OT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室
								206教室
授業概要	医療従事者、作業療法士としての資質を高めるために障害とは何かを学び、障害に対する理解を深める。							
一般目標	障害に対する理解が深まり、障害がある人に対する特別視や先入観、偏見が軽減する。支援活動で積極的に活動に参加できる素養を修得できる。							
テキスト 参考書等	PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 リハビリテーション医学 第1版(羊土社)							

到達目標	
知識(認知領域)	・障害の概要が説明できる。・身体障害・知的障害・精神障害の概要が説明できる。・国際障害分類(ICIDH)、国際生活機能分類(ICF)の概要が説明できる。・障害者福祉施策・関連法規を知ることができる。・障害者支援に関するキーワードを知ることができる。また、一部は概要を説明できる。
技術(精神運動領域)	・特になし
態度(情意領域)	・授業に意欲的に参加できる。

回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 障害の概念①(総論)	講義の概要を説明できる。 障害とは何かを説明できる。
2	障害の概念②(総論、身体・知的・精神 障害とは等)	身体障害、知的障害、精神障害をそれぞれ総論として説明できる。
3	障害の概念③(各論)	身体障害、知的障害、精神障害をそれぞれ代表的な障害像を事例として説明できる。
4	WHOが提唱する障害の階層構造 (ICIDH、ICF)	ICIDHとICFの概要が説明できる。
5	障害の概念④(障害がある人を理解し、 配慮のある接し方を学ぶ)	身体障害、知的障害、精神障害のある人とのかかわり方を説明できる。
6	障害の概念⑤(障害がある人を理解し、 配慮のある接し方を学ぶ)	身体障害、知的障害、精神障害のある人とのかかわり方を説明できる。
7	障害者福祉施策・関連法規	障害者福祉施策・関連法規について概要を説明できる。
8	権利擁護・等 まとめ	権利擁護・等の概要を説明できる。 講義を振り返り、まとめることができる。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として、保健・医療領域および教育機関での実務経験が20年以上である。	

科目名	障害者支援技術演習 I			単位数	1	時間数	30		
授業形態	演習	対象学生	OT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	206
授業概要	様々な学内外での活動における障がいを持たれた方たちとの交流を通じて、実際の支援が体験出来る。学内外での活動に参加する際の、基本的な責務や注意事項について説明出来る。								
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害について概要を学び、障がい者支援について基礎的な知識を修得する。 ・ボランティアや障害者スポーツの歴史や取り組みについての知識を修得する。 ・学外活動を行う上で必要な礼節、立ち居振る舞いを学び、接遇に関する基礎的な技術を修得する。 								
テキスト 参考書等	適宜資料配布								

到達目標		
知識(認知領域)		
<ul style="list-style-type: none"> ・障害について概要を理解する事が出来る。 ・ボランティアや障害者スポーツの歴史や取り組みについて理解することが出来る。 		
技術(精神運動領域)		
学外活動を行う上で必要な礼節、立ち居振る舞いを学び、実践することが出来る。		
態度(情意領域)		
学外活動を行う上で必要な礼節、立ち居振る舞いを学び、実践することが出来る。積極的に授業に参加することが出来る。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション	対人援助職として、OT実習生としての心得、コミュニケーション方法について理解し、実践することが出来る。
2	障害の理解について	社会における障害に対する意識や態度、制度について概要を理解出来る。
3	障害者スポーツボランティア オリエンテーション	障害者スポーツボランティアに参加するにあたり、障害者スポーツの歴史、取り組み等の概要を理解出来る。
4	障害者スポーツボランティア①	山口県サウンドテーブルテニス大会にボランティアとして参加し、交流を通して障害者に対する理解を深めるとともに、障害者スポーツの振興に寄与する事が出来る。
5	障害者スポーツボランティア②	山口県サウンドテーブルテニス大会にボランティアとして参加し、交流を通して障害者に対する理解を深めるとともに、障害者スポーツの振興に寄与する事が出来る。
6	障害者スポーツボランティア③	山口県サウンドテーブルテニス大会にボランティアとして参加し、交流を通して障害者に対する理解を深めるとともに、障害者スポーツの振興に寄与する事が出来る。
7	障害者スポーツボランティア④	山口県サウンドテーブルテニス大会にボランティアとして参加し、交流を通して障害者に対する理解を深めるとともに、障害者スポーツの振興に寄与する事が出来る。
8	ボランティア経験発表	ボランティアで得た経験を共有し、今後のリハビリ職としての意識・意欲を高めることが出来る。
9	認知症サポーター養成講座①(PT松原教員)	認知症サポーター養成講座を受講し、認知症を持った方々、またその周囲の関係者への援助方法や対処方法を理解し、実践することが出来る。
10	認知症サポーター養成講座②(PT松原教員)	認知症サポーター養成講座を受講し、認知症を持った方々、またその周囲の関係者への援助方法や対処方法を理解し、実践することが出来る。
11	まとめ	これまでの授業・体験を振り返ることで、知識や技術を深めることが出来る。
12	実習生プロフィール作成・フィードバック(2コマ分)	作業療法学概論演習(病院見学実習)に向け、実習生プロフィールを作成することが出来る。
13	実習生プロフィール作成・フィードバック(3コマ分)	作業療法学概論演習(病院見学実習)に向け、実習生プロフィールを作成することが出来る。
14	個人情報保護誓約書等書類作成(1コマ分)	作業療法学概論演習(病院見学実習)に向け、個人情報保護誓約書を作成することが出来る。
15	実習御礼状作成・送付(1コマ分)	作業療法学概論演習(病院見学実習)終了後、実習お礼状を作成し送付することが出来る。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート	○			90	可(1):60点以上
授業態度			○	10	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	作業療法士として15年間病院で勤務。その間、地域での健康づくり教室やボランティア活動にも従事。	

科目名	地域リハビリテーション概論				単位数	1	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	OT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	206教室
授業概要	地域リハビリテーションの概要および介護保険制度など地域リハビリテーションにおいて必要な知識を学ぶ。								
一般目標	リハビリテーション医療における地域のとらえ方を知る。地域リハビリテーションの定義など概要、活動の実際を説明できる。								
テキスト 参考書等	PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学(羊土社)								

到達目標									
知識(認知領域)									
・地域が説明できる。・地域リハビリテーションの概念とともに、ノーマライゼーションについて説明できる。・地域リハビリテーションを理解するうえで必要なキーワードが説明できる。 ・地域リハビリテーションを支援する関連制度の概要を説明できる。・地域リハビリテーションの諸サービスの概要を説明できる。									
技術(精神運動領域)									
・特になし									

態度(情意領域)									
・授業に意欲的に参加できる。・地域での作業療法士の活躍について学生同士で説明できる。									

回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 地域のとらえ方 地域リハビリテーションの考え方と定義①	講義の概要を説明できる。 地域とは何かを説明できる。 地域リハビリテーションとは何かを説明できる。
2	地域リハビリテーションの考え方と定義②	地域リハビリテーションとは何かを説明できる。
3	地域リハビリテーションに関するキーワードについて①	地域リハビリテーションの関連用語の概要を説明できる。
4	地域リハビリテーションに関するキーワードについて②	地域リハビリテーションの関連用語の概要を説明できる。
5	地域リハビリテーションの関連制度(介護保険制度・等)	介護保険制度などの概要を説明できる。
6	地域リハビリテーションの諸サービス①	通所・入所・訪問サービスの概要を説明できる。
7	地域リハビリテーションの諸サービス②	通所・入所・訪問サービスの概要を説明できる。
8	作業療法の実践事例を知る まとめ	介護保険制度下での作業療法の実践事例を述べるができる。 講義の振り返りができる。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として、保健・医療領域での実務経験が20年以上ある。	